仙人通信１２０　青笹山（1550m）

　青笹山は安部川の東、十枚山構造線と韮崎－静岡構造線に挟まれ、八紘嶺から龍爪山に連なる龍爪山地のほぼ中央で、先に登った十枚山と高ドッキョウの間にある山である。

新静岡 IC から安部川に沿って北上し、有東木（500m）から更に上の葵高原（900m）に車を置いて、地蔵峠→細島峠→青笹山へ向かうコースとした。葵高原から中山峠？まではコンクリートで舗装された林道を 45 分進む。カーブの先に数台の車の駐車スペースがあり、ライオンズクラブが設けて下さった道標⑥がある登山口だ。背丈 30ｃｍ程の石のお地蔵様が、赤い帽子と口紅が何とも愛らしい。

登りは檜林で始まるキツイ登りだ。寒い事から、登山道が日の光が差し込む方に進むと南面を期待するも、ほぼ北面だ。５段に成長した霜柱に雪が被さり、変わった造形に目が奪われる。

標識⑧番からは、雪解けで凍った氷に雪が積った足元となるが、緩やかの登りでもあり、ステップに気を付け進む、やがて正面に笹で覆われた十枚山が覗く。尾根筋では、小生のカウベル以外音のない静かな世界で、霧氷が白く光り幻想的な世界を醸し出す。45 分程で⑩番の地蔵峠である。

ブナの巨木のある小さな広場の道標の南側に、お地蔵様が安置された御堂だ。進路を左に取り、20 分程進むと雪で化粧した北斎の絵のような富士山が目の前に現れ喜んで眺めたが、おかしな事に気づいた。富士山は進行方向左手のはずが右手である。コンパスと地図を開き眺めると十枚山に向っているではないか。背中には、青笹山が覗いていた。30 分の時間ロスをして地蔵峠に戻ると、青笹山を指す道標が有るではないか（思い込みが酷い！）。気を取り戻して右手の仏谷山に向かう。山頂までは、雪の量も増えた為、20 分を要した。休憩してアイゼンを付ける。尾根道の下りであるが、梢が多く視界は良くない。25 分ほどで梅島峠⑮である。今日は等圧線の間隔が広く穏やかな晴天にも関わらず峠では、冷たい風が集まり、勢いよく通過して行く。下山コース（葵高原方面）の道標を探し確認（一安心だ）。

アイゼンのクリップを確認し登りに取り付く。20 分程でうつろぎ山山頂⑱である。やっと視界が開け安部川の先の南アルプス（赤石から南側）がグルリと望めるようになる。目の前には青笹山が望めるが、先ほどまで見えていた愛鷹から富士山・天子ヶ岳はすっぽりと雲の中だ。１ｃｍ程に成長した霧氷が、ハラハラと頭上へ光りながら舞う。足元では、解けた雪が再結晶化して、日の光を受け、素敵な造形を醸し出す。こんな光景を一人占めできる喜びが胸を過ぎる。25 分程で笹の刈り取られた青笹山山頂⑳である。360°の展望は最高！だ。左眼下には沼津港から伊豆の山、正面には龍爪に連なる高ドッキョウや三角の真富士、右手には静岡から焼津方面の海岸線、南アルプス赤石から南の山々、嘗て登った八光山から安部川も富士川も望める。残念なのは富士山方面が雲に覆われて見えない事だ。休憩後下山に着く。

梅島峠までは、ガイドに 15 分とあるが行ける筈がないと思っていたら、うつろぎ山⑱の近くの木に葵高原方面（急坂につき注意）とある。アイゼンのグリップ・木の根や幹そしてスティクを確実しながらゆっくりと下山した。途中太陽の当たる沢筋では、山葵田が至る所にあり、運搬用のモノレールも整備されている。そう有東木は、日本の山葵の発生地だそうだ。帰りに山葵漬けを土産にした。葵のご紋は山葵の葉？何て考えた、誰にも会うことない５時間 40 分（22000 歩）の山旅でした。（ｈ26.1.　17）

尾根道

梢の霧氷

山頂